



地域医療  
支援病院

災害拠点  
病院

地域医療連携室診療連携広報誌

九州労災病院

# 九労 Kyuro Hello! ハロー



# 迎春

**理念** 地域住民と勤労者の皆様に、良質で安全な医療を提供します。

- 基本方針**
- 患者さんの権利を尊重し、患者さん中心の医療を提供します。
  - 地域医療機関との連携を重視し、中核病院として高度専門医療を担います。
  - 働く人々の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
  - 患者さんに寄り添う心と、高い技能を兼ね備えた医療人を育成します。
  - 経営基盤が安定し、働き甲斐のある病院づくりを目指します。



2020 January vol.80



院長  
岩本 幸英

## 謹んで新春の寿ぎを申し上げます

皆様、明けましておめでとうございます。当院は1949年の病院開設以来、地域の先生方や住民の皆様の暖かいご支援により順調な発展を遂げて参りました。

これまでの皆様のご支援に対し、心からの御礼を申し上げます。当院は引き続き、急性期病院としての機能維持と地域ネットワークの発展を目指し、全力を尽くして参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 急性期医療を担う地域の基幹病院として

九労は引き続き、地域の基幹病院として、すべての診療科がかかりつけ医との連携、救急体制を強化し、地域住民の皆様の期待に応えて参ります。そのために、連携医療機関の先生方と、より密接な連携を行いたいと思っております。

### がん診療の強化

従来、外科、内科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科などで取り扱ってきたがんの診療体制を充実させる一方で、2016年に整形外科の中に骨・軟部腫瘍外科、2017年には放射線治療科を新設、2019年には外来化学療法室を拡張いたしました。今後も引き続き、がん診療全体の充実を図りたいと思っております。

### 歯科・口腔外科の新設

昨年10月に歯科・口腔外科を新設しました。虫歯の外来治療は従来通り地元の歯科医院にお任せし、当院では歯科医師による周術期口腔機能管理を中心とした診療を行います。手術前後の口腔機能管理により、がんや人工関節、脳卒中などの手術後の感染、誤嚥性肺炎を軽減できるので、病院全体の医療の質および治療成績の向上につながると思っております。

### 救急・災害医療体制の充実

当院は、救急医療に力を入れています。一刻を争う脳卒中や心筋梗塞の治療では、救急隊と緊密な連携を構築し、24時間体制で早期治療に当たっています。また、当院の整形外科は充実しており、骨折をはじめとする外傷に対し、高度な専門的治療を提供しています。九労は今後さらに救急医療体制の充実を図ります。また当院は、2016年に災害拠点病院に認定されております。今後、予測不能な大災害に適宜対応し、地域の皆様の期待に応えていきたいと存じます。

### 勤労者医療の充実

地域の基幹病院としての役割に加え、勤労者医療の充実は、当院のもう一つの大きな使命です。従来どおり労働関連の疾患の治療と健診、勤労者のメンタルヘルスケア、生活習慣病の予防・治療、脳卒中などの職場復帰支援に取り組む一方、今後はがん患者の就労・職場復帰支援にも取り組んで行きたいと思っております。

当院が今後も地域の皆様に「安全で良質な医療」を提供し続けていくためには、地域の先生方との連携をさらに緊密にする必要があります。皆様のより一層のご指導とご支援をお願い申し上げます。



特殊検査や治療・手術に対応します

## 眼科

眼科 部長 ながた 永田 たつお 竜朗



後方左より 荷宮 医師事務作業補助者・松浦 視能訓練士・山田 医師事務作業補助者・戸上 視能訓練士  
前方左より 梅本 看護師・平野 文 医師・永田 竜朗 部長・吉福 看護師

平素より患者さんをご紹介いただき誠にありがとうございます。現在、眼科スタッフは、常勤医2名と視能訓練士2名、看護師2名、医療事務作業補助者2名、クラーク1名で、月曜日から金曜日の午前中は外来診療（新患・再来）、火・水曜日の午後は手術、月・木・金曜日の午後は予約制で特殊検査や治療を行っております。

硝子体手術は 25G もしくは 27G システムによる手術を行っております。眼外傷、裂孔原性網膜剥離や穿孔性眼外傷後など、多くの網膜硝子体疾患に対応可能です。網膜切開が必要な増殖硝子体網膜症手術や鋸状縁断裂による網膜剥離に対してのバックル併用硝子体手術、網膜下血腫除去術などを行っています。

また、スーチャートラベクトミー、眼内レンズ強膜内固定術などの新しい低侵襲手術にも対応しております。手術は原則入院下で行っていますが日帰り手術でも対応しております。患者さんや先生方のお役に立てるようスタッフ一同努力してまいりますのでお困りの患者さんがおられましたら当科へご紹介ください。

## 眼精疲労について

### はじめに

単なる目の疲れの場合は、休息を取ることで回復が可能ですが、眼精疲労になると何らかの改善・治療をしないと回復しません。今回は仕事にも責任が増す中年期に多くの人が経験することになる『老視による調節性眼精疲労』についてご紹介させていただきます。

### ①老視の症状

人により差はありますが40歳を過ぎた頃から、本や新聞、パソコンの文字の見えにくさ、目の疲れや目の奥の痛み、焦点の合いにくさ、頭痛・眼痛・肩凝り等を感じる人が多くなります。少し離れたほうが見やすいと感じることもあります。これらはいわゆる老眼の初期の症状であることが考えられます。『老眼』として知られていますがこれは俗名で、正式には『老視』といいます。老視とは、加齢に伴って生じる眼の調節機能の衰えて、加齢による生理現象の一つでもあり、誰しも避けて通ることはできません。きちんと病態を理解していないと眼精疲労を引き起こしてしまいます。





## ②老視の病態

そもそも眼球を構成する水晶体（図1）は、カメラのレンズの役割をしており、毛様体の働きにより厚くなったり薄くなったりすることでピント調節（焦点調節）をしています。老視の本態はこの水晶体の弾力性が失われることにあります。老視ではピント合わせをする筋肉（毛様体：図1）が衰えてくると思われていることが多いですが、これは誤解で筋肉自体は問題なく、水晶体自体が伸び縮みできなくなるために焦点調節が出来なくなります。図2に示すように実際は10歳代より20歳代、30歳代より40歳代と焦点調節できる幅（調節力）は低下していきます。老眼なんてまだまだと思っている方が多いと思いますが、実際には老視の兆候は若いときから始まっているのです。調節力が3D（ジオプター）以上あれば近くと遠くを見るのに支障ありませんが、それより低くなる40歳代後半くらいになるとそれが難しくなってきます。近くも遠くもみるための調節力が限界となるこの時期は、日時による調節力の変動もあり、とくに調節性眼精疲労の状態となりやすくとされています。また、60～70歳になると水晶体は弾力性が失われるだけでなく、濁りを生じるようになってきます。これが白内障です。実は老視と白内障は深い関連があるのです。

図1 眼球の構造と名称

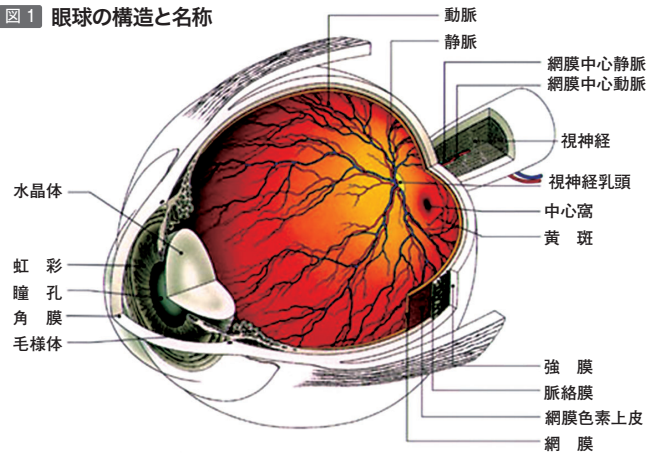
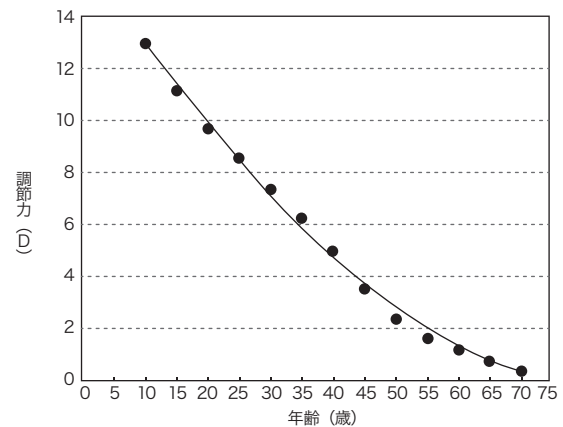


図2 年齢と調節力の関係



D(ジオプター)は調節力の単位で、ここでは数値が高いほど焦点調節の幅があることを示します。人によって若干の差はありますが、2Dを切る50歳代になると近くも遠くも問題なく見る調節の力が消失し、いわゆる老眼状態となります。

## ③老視による眼精疲労の治療

基本的には適切な眼鏡を作製し使用することが治療となります。老化によって低下した水晶体の調節力を補うため、近くのものを見るときには凸レンズの眼鏡を使います。もともと近視の方が老視になった場合は凹レンズを少し薄くして度を弱めたり、眼鏡を外したりして近くを見ます。適正な眼鏡を正しく使えば、症状は軽減します。老視用眼鏡は本を読む距離（約30～40cm）で焦点が合うように調整しますが、パソコンの画面や楽譜など少し離れた距離のものを見るために使用する場合はその距離に合っためがねを処方してもらう必要があります。また、二焦点（遠・近距離用、中・近距離用など）、三焦点（遠・中・近距離用）、累焦点（遠方から近方を境界がないように段階的に変化させている）レンズの場合、いずれも焦点が合う部分が狭く限られており、慣れるのに時間がかかったり、さらに最終的に掛けることができなくなったりする方も少なくありません。読書やパソコン作業・書類記入など作業時間の長い場合は、その距離専用の眼鏡を使用することが眼を疲れさせないポイントです。調節力が残存している40～50歳代は完全に矯正したレンズでなく比較的軽い度数のレンズでよいですが、『自分はまだまだ老眼になんかなっていない』と拒否してしまえば確実に眼精疲労の症状が出現してきます。

## おわりに

忙しく仕事や日常生活を送っていると意識しないことが殆どですが、日々我々は老いています。そして、その代表といってもよいのが水晶体で、『老視』そして『白内障』に着実に向かっています。最近目が疲れるなあと感じている患者さんがおられましたら、眼科受診することをお勧め下さい。眼のことでお困りの際は、お気軽にご相談下さい。



九労地域医療連携勉強会

消化管ストーマ合併症のケア

～ストーマ脱出・傍ストーマヘルニア～

皮膚・排泄ケア認定看護師 下畑 由美  
 杉本美由紀

日程 **2月20日(木)**

開催時間 19時00分～20時00分

場所 当院3階 講堂

※事前申し込み不要。  
 ※お車で越しの方は  
 当院患者専用駐車場を  
 ご利用下さい。

受け付けにて  
 無料駐車券を  
 お渡しいたします



第7回 骨軟部腫瘍オープンカンファレンス

19時00分～19時10分 ミニレクチャー  
 「高齢者肉腫治療の問題点」 整形外科医師 前川 啓

19時10分～20時00分 症例検討  
 骨軟部腫瘍外科部長 松延 知哉

日程 **3月12日(木)**

開催時間 19時00分～20時00分

場所 当院3階 講堂

全ての職種の方が対象となっておりますので、  
 多数のご参加をお待ちしております



九州労災病院

〒800-0296 北九州市小倉南区曾根北町1-1

TEL 093-471-1121(代表)

ホームページ <http://www.kyushuh.johas.go.jp>

診療案内

- 受付時間 午前8時15分～午前11時
- 救急受付 急患は24時間随時受け付けます
- 診療時間 午前8時45分～午後5時15分
- 休診日 土曜日・日曜日・祝日  
 年末年始(12月29日～1月3日)
- 初診時 5,500円  
 選定療養費 診療情報提供書のご持参を  
 お願いしております

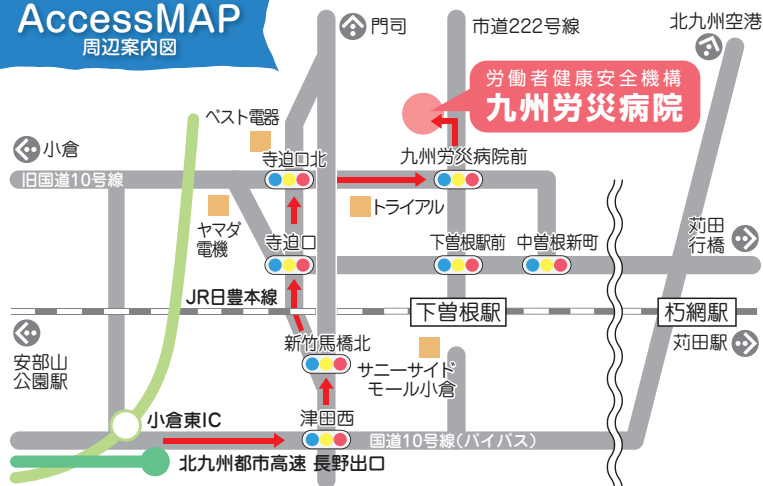
地域医療連携室

- 直通TEL 093-475-9686
- 専用FAX 093-473-5903
- E-mail [renkei.renk-k@kyushuh.johas.go.jp](mailto:renkei.renk-k@kyushuh.johas.go.jp)

地域医療連携室STAFF

- 室長 副院長 中島 信能
- 看護副長 山口 美香 / がん看護専門看護師 岩崎 玲奈  
 慢性疾患看護専門看護師・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 安永 恵
- 看護師 上原 敦子
- 事務 課長 今村 剛 / 係長 村岡 美紀子  
 武久 亜紀子 / 久保 良恵 / 黒田 早苗 / 坂口 美幸
- MSW 坂出 友美 / 西村 ますみ / 竹中 芳美

AccessMAP  
 周辺案内図



地域医療連携室をご利用ください

- 電話・FAXによる紹介患者さんの受診予約・事前受付
- MRI・CT・胃カメラ等の検査予約
- 救急診療のご依頼
- 転院に関する相談・紹介・問い合わせ
- 診療に関する様々な問い合わせ
- 患者さんに関する情報や返事が滞っている場合
- 診療情報提供書の発送業務
- 開放型病床利用に関すること
- セカンドオピニオン外来に関すること

